

アラスカ便り



第3回

私が8月から滞在している IARC/UAF (International Arctic Research Center/University of Alaska Fairbanks) の建物から歩いて4、5分のところに白壁のモダンな建物があり、これはUAFの博物館「Museum of the North」である(写真1)。UAFの博物館はフェアバンクス観光スポットの一つとなっているようで、バックパックを背負った観光客をよく見かけ、ときおり観光バスも訪れている。

私はこれまで、博物館に併設されているカフェにコーヒーや昼食を買いに行ったことは何度かあったが入館はしていませんでしたので、10月中旬の土曜日に見学のため訪れた。展示コーナーに向かうと、いきなり大きな brown bear の剥製が立ち姿で出迎えてくれる(写真2)。展示はアラスカの自然、歴史に関するものが中心で、中には第二次世界大戦後に日系人がアラスカに強制移住させられた記録や、アラスカの小さな村の建設に貢献した日本人の話など、日本人に関わり深い内容もあり、大変興味深かった。最近アラスカで発掘された恐竜の化石に関する特別展示も行われていた。

秋分を過ぎて10月に入り、昼はみるみる短くなっている。毎朝同じ時間にバスを待っているのに、どんどん暗くなっているのがわかる。頭では理解していても、いざ経験すると不思議な感覚である。気温も下がり、朝の気温が -20°C という日も現れるようになった。フェアバンクスを東西に流れるチナ川は、10月中旬には上流から氷塊が流れていたが、下旬には川面がほぼ氷結して雪が積もっていた(写真3)。本格的な冬はまだまだこれからである。

とは言っても、今年10月のフェアバンクスは、平年より暖かく乾燥していたのだとか。特に降水量は観測史上2番目に少なく、0.02インチ(約0.5mm)だったそうである。平均気温は 37.6°F (3.1°C)で、平年より 5.7°F (3.2°C)暖かかったとのことである。米国気象局(National Weather Service)の予測では、この傾向は11月も続くというのだが、果たして。

2016年11月4日

渡来 靖(環境システム学科)



写真1: UAFにある博物館「UAF Museum of the North」の外観。入館料は大人\$12



写真2: 博物館の常設展示コーナー入り口の様子。入り口では大きな brown bear の Otto 君がお出迎え



写真3: ダウンタウンを流れるチナ川の光景。左は10月15日、右は10月29日に撮影